

「主體的・対話的で深い学び」を支える教師の実践力を培うために  
**省察的実践の長期漸成サイクルをコアとする養成研修カリキュラムの実現と  
 学校・教育委員会・地域・大学「専門職学習コミュニティ・DX多重協働ネットワーク」の構築**

**問題意識と目標**

子どもに求められる学びの変容

**世界規模で進む学習観の転換**

学習観の転換に伴い  
 教師に求められる資質能力

- ・ facilitation・coordinationの力 (省察的実践力を支える協働性)
- ・ 「見取り」の力とデザインする力
- ・ managementする力
- ・ DX推進の協働力

《**本学の3つの目標**》

**[1]学習観を転換する教育課程を創造する**

学部教育・連合教職大学院の教育課程の創造

**[2]高度専門職業人養成のネットワークを構築する**

働きながら学ぶ教職大学院ネットの構築

**[3]学校づくり基盤とする教師の生涯にわたる職能成長を支える機関になる**

学習履歴で校内研修と校外研修を繋ぐ教員研修連携の構築

**R4年度 取組の進捗状況**

- ①学部教育における教育課程の創造  
 フラッグシップ科目7単位設定R5より開始。R6に全科目整理完了予定。民間企業と連携してタブレットに代わるデバイス開発中。
  - ②連合教職大学院の教育課程の創造  
 フラッグシップ科目10単位設定しR5より開始。学校での実践と大学での取組みを繋ぐオンラインシステムを民間企業と連携して構築中
- ①働きながら学ぶ基盤づくり  
 働きながら学ぶ基盤は、大学院教育と 校務の齟齬が最小になり(むしろプラスになる)学校拠点方式であること。まずは、学校実習を勤務校で実施する体制づくりを各大学に働きかけること。本年度、山形大学・世田谷区・加賀市・東京都で説明実施。
  - ②働きながら学ぶ基盤ネットワーク  
 日々の取組を省察的実践のサイクルに繰上げるためには、記録と実践交流が不可分。まずは、**ラウンドテーブルの単位互換**を実現する。各大学に単位互換の調査実施中
- ①生涯にわたって学び合うためにfacilitation・coordinationの力を持つ leaderを育成する教員研修の実現  
 NITS全国規模の「研修デザイン力養成セミナー」の企画運営実施(8月4-5日,参加者120名,全都道府県・政令指定都市より)
  - ②教師の学校内での組織学習を支える取組み  
 当該学校の実践記録から校内研修の質保証、及び教員研修のオンデマンド教材の質保証をするデジタルバッジの開発研究を大阪教育大学と連携して計画進展中(補正予算申請予定)
  - ③教育委員会と連携協働した教員研修システムの構築  
 福井県と共同開催の教員研修を設置・次年度完全実施  
 加賀市・板橋区・宮古島市教育委員会と教員研修と教職大学院科目の連携起案中(補正予算申請予定)
  - ④教育委員会との人事交流・併任制、民間とのクロアポの推進  
 民間とのクロアポ1件実現、教育委員会と併任の拡大協議中

**今後の課題/根本的課題**

- ①他学部でのフラッグシップ科目の実施と複数免許取得を実現に向けて全学での調整(教員免許センター)
  - ②フラッグシップ科目の内実のともなう実施のためには、(イ)大学教員の学習者主体の教育観の転換と協働の実現が必須。この体質改善に挑戦する。(ロ)学部教育と大学院教育の接続(5年制)と義務教育課程の改正と連動させた取組みを進める。
- ①学校拠点方式の拡大  
 富山国際大学の連合教職大学院への参加(R6)
  - ②ラウンドテーブルの単位互換に向け教育課程の特例制度の大学院への拡大に合わせて進める。
- ①NITSと協働の「研修デザイン力養成セミナー」の継続的実施と「インターバル型研修・リーダー教員育成研修」の新規実施
  - ②教員養成の生涯学習機関化のネックは、外部資金の獲得。任経験者の負担にしても限界。この障壁を乗り越える手立ての考案が課題。県教委との連携や人事交流の仕組みはセクスのモデルを目指す。日本型学校教育とそれを支える教師教育の連動したシステムをさらに海外に展開させる。

## 問題意識と目標

子どもに求められる学びの変容

### 世界規模で進む学習観の転換

学習観の転換に伴い  
教師に求められる資質能力

- facilitation・coordinationの力  
(省察的実践力を支える協働性)
- 「見取り」の力とデザインする力
- managementする力
- DX推進の協働力

社会が大きく変動する時代、教育も大きな変革が求められている

超スマート社会に突入したいま、教育では**学習者主体の教育への転換**が急務

子ども中心・学習者主体の教育に転換するためには、  
それに携わる**教師自身が主体となる学びに転換**しなければならない  
(教員養成システムの大転換)

こういった状況での教員養成フラッグシップ大学の採択  
責務の重大さを実感

フラグ大学のミッション

学び手である教師が、主体的に生涯にわたって学び続けることを可能にする教員養成・教師教育の構築

そのためには

学び手である教師主体の育成システム(現職教員が学び続けることができる仕組み)をコアに  
準備教育である教員養成をも包括する一体的な教員養成・教師教育システムを構築することが  
目指す目標になる

## 問題意識と目標

子どもに求められる学びの変容

### 世界規模で進む学習観の転換

学習観の転換に伴い  
教師に求められる資質能力

- facilitation・coordinationの力  
(省察的実践力を支える協働性)
- 「見取り」の力とデザインする力
- managementする力
- DX推進の協働力

## 教師が生涯に学び続ける育成システムの構築に立ちはだかる2つの壁

- 現職教育・教員研修に大学が関与することを妨げる**財政的な障壁**  
教員研修は収益にならない(教師教育が大学の中心的業務になりえない)
- 大学を**レジームチェンジ**することの障壁  
(新制大学に設置された教育学部と免許法)

準備教育がゴール? それをゴールとした免許制度  
師範学校の反省から教師の資質能力を問わず、様々な学問成果をコンパートメントに  
学ぶシステムの成立とその限界

## 2つの壁を打ち破る手掛かり

### 学校拠点方式 学校における教師主体の学び

- 財政 ・ 院生としての授業料収益を足掛かりに 薄く広く 私費負担軽減策を模索
- レジームチェンジ ・ 個の学び⇒組織の学び (校内研修を中心とする学校の改革⇒専門職学習コミュニティの構築)
- 講義⇒教師が主体的に取り組む授業等のPBLを支える教育課程
- 世代が輪切りにされた教育⇒学部新卒院生と熟練教師の連携の学び  
(世代を繋ぐ学び⇒改革マネジメントの力量形成)

### フラッグシップ大学 文科省へ直接的に制度改革の提案が可能に

「現職教員の主体的な学び」を  
コアとする育成システムの構  
築には、全国同時に多発的に  
育成システムを検討すること  
が必要  
NITSは、その要

学校拠点方式の  
拡大  
教員研修評価の  
重要性  
フラグ大学間の  
連携の重要性

福井県教委と教員研修の協  
働開催を「学び続ける教師の  
育成システム」への契機へ  
600人×3世代 教職大学院への接続  
クロアポ的人事交流・併任制  
財政改革 民間交流

NITSとの全国の教育委員  
会に向けた連携研修の開始

日本型学校教育とそ  
れを支える教師教育  
システムのセットで  
海外展開、その海外  
価値が国内評価を高め  
る

《本学の3つの目標》

【1】学習観を転換する教育課程を  
創造する

学部教育・連合教職大学院の教育課程の創造

【2】高度専門職業人養成のネット  
ワークを構築する

働きながら学ぶ教職大学院ネットの構築

【3】学校づくり基盤とする教師の  
生涯にわたる職能成長を支え  
る機関になる

学習履歴で校内研修と校外研修を繋ぐ教  
員研修連携の構築

R4年度 取組の進捗状況

- ①生涯にわたって学び合うためにfacilitation・coordinationを持つ  
leaderを育成する教員研修の実現  
NITS全国規模の「研修デザイン力養成セミナー」の企画・運営実施(8月4-5  
日,参加者120名,全都道府県・政令指定都市より)
- ②教師の学校内での組織学習を支える取組み  
当該学校の実践記録から校内研修の質保証、及び教員研修のオンデマ  
ンド教材の質保証をするデジタルバッジの開発研究(大阪教育大学  
と連携して計画進展中(補正予算申請予定))
- ③教育委員会と連携協働した教員研修システムの構築  
福井県と共同開催の教員研修を設置・次年度完全実施  
加賀市・板橋区・宮古島市教育委員会と教員研修と教職大学院科目の連  
携起案中(補正予算申請予定)
- ④教育委員会との人事交流・併任制、民間とのクロアポの推進  
民間とのクロアポ1件実現、教育委員会と併任の拡大協議中

今後の課題/根本的課題

- ①NITSと協働の「研修デザイン力養成セミナー」の継続的実施と「インターナ  
ショナル型研修・リーダー教員育成研修」  
の新規実施
- ②教員養成の生涯学習機関化のネック  
は、外部資金の獲得。任経験者の負  
担にしても限界。この障壁を乗り越  
える手立ての考案が課題。県教委と  
の連携や人事交流の仕組みは先駆  
的モデルを目指す。日本型学校教  
育とそれを支える教師教育の連  
動したシステムをさらに海外に展  
開させる。

省察的学校拠点方式の拡大と  
専門職学習コミュニティの構築  
東京事務所開設  
各市と連携協定  
NITS研修の開始

連合教職大学院の  
メンバー構成の変更

奈良女子大学  
⇒富山国際大学

### R4年度 取組の進捗状況

#### ①働きながら学ぶ基盤づくり

働きながら学ぶ基盤は、大学院教育と 校務の齟齬が最小になり(むしろプラスになる)学校拠点方式であること。まずは、学校実習を勤務校で実施する体制づくりを各大学に働きかけること。本年度、山形大学・世田谷区・加賀市・東京都で説明実施。

#### ②働きながら学ぶ基盤ネットワーク

日々の取組を省察的実践のサイクルに繰上げるためには、記録と実践交流が不可分。まずは、ラウンドテーブルの単位互換を実現する。各大学に単位互換の調査実施中

### 今後の課題/根本的課題

- ①学校拠点方式の拡大  
富山国際大学の連合教職大学院への参加 (R6)
- ②ラウンドテーブルの単位互換に向け教育課程の特例制度の大学院への拡大に合わせて進める。

### 【2】高度専門職業人養成のネットワークを構築する

働きながら学ぶ教職大学院ネットの構築

広範の共有ネットワーク構築の契機  
省察的実践サイクルの構築  
語りと傾聴及び記録報告の執筆と公表  
による実践交流の場の創出  
(学び続ける教師の育成システムの基盤)

教育課程の特例制度の  
大学院への拡大を期待



(学部段階)  
教員免許1種と2種の差分7単位を用いてフラッグシップ科目の開設  
(大学院段階)  
9単位を用いてフラッグシップ科目開設  
企業と連携しDX化の促進

### R4年度 取組の進捗状況

- ①学部教育における教育課程の創造  
フラッグシップ科目7単位設定R5より開始。R6に全科目整理完了予定。民間企業と連携してタブレットに代わるデバイス開発中。
- ②連合教職大学院の教育課程の創造  
フラッグシップ科目9単位設定しR5より開始。学校での実践と大学での取組みを繋ぐオンラインシステムを民間企業と連携して構築中

### 今後の課題/根本的課題

- ①他学部でのフラッグシップ科目の実施と複数免許取得を実現に向けて全学での調整(教員免許センター)
- ②フラッグシップ科目の内実のともなう実施のためには、(イ)大学教員の学習者主体の教育観の転換と協働の実現が必須。この体質改善に挑戦する。(ロ)学部教育と大学院教育の接続(5年制)と義務教育課程の改正と連動させた取組みを進める。

【1】学習観を転換する教育課程を創造する

学部教育・連合教職大学院の教育課程の創造

フラッグシップが不利益に  
高免(工・理) **×**

国立大・他学部の  
教員希望者の減少

養教免 **×**

医学部

工学部

小中免?

総合教職開発本部

免許センター

小中免?

国際地域  
学部

英語免?

地域連携プラットフォーム  
での一部開講 検討

教育学部

総合大学としてフラッグシップの挑戦  
全学組織である総合教職開発本部及び  
教員免許センターの設置

- ・養護教諭免許対象外
- ・高校免許取得の特例措置があるためフラッグシップ科目が他学部の負担
- ・他学部における小中の2種免の取得のための工夫を検討
- ・地域連携プラットフォーム内での教職科目の提供の検討